

ローマ法王、ウクライナ侵攻を非難

大ローマ布教所長

山口 英雄 Hideo Yamaguchi

侵攻に対する法王の素早い反応

本年 85 歳のローマ法王フランチェスコは、ロシアによるウクライナ侵攻に厳しい非難の声を上げている。法王は毎週日曜日に行われるアンジェルスの話で、戦争を嫌悪し、戦争を早く終結させて世界平和を希望すると述べている。侵攻当日の 2 月 24 日の時点で、早くも戦争解決のための最初の提案を行った。

法王は、その 2 日後の 2 月 26 日、ローマにあるロシア大使館に出向き、戦争に対する自らの懸念について伝えている。昨年 (2021 年) 12 月 17 日には、ロシアのウクライナ侵攻を見越し、アレクサンダー・アドヴェエ大使を通じて、一般市民にも及ぶ戦争への恐れをすでに告げていた。法王はこの中で、特に子供達を守ることを、また病人をはじめとして苦しんでいる人々の救護について述べている。また法王は、戦争が始まるや否や、キーウ (キエフ) の東方典礼カトリック教会首位大司教スヴィアトスラフ・シェブチュックに電話をして、「平和のためにできることは全て実行する」と伝えた。ツイッターでは、ロシア語とウクライナ語で「我々は皆きょうだいである」と述べ、「戦争は政治の破滅であり、人類の破滅である」と訴えた。

聖エジディオ共同体の創始者アンドレア・リッカルドは、「キーウは開かれた都市である」と定義している。キーウ当局との公式的仲介はなされていないものの、水面下で折衝を続けているようだ。ヴァチカンの国家秘書パロリンも、「良識のための時間はまだ残っている。また、対話の場も残されている」と述べている。法王はロシア総主教キリル 1 世と連絡を取って、「市民の犠牲」を避ける努力をするように要請している。

3 月 6 日の一般謁見の日に、法王はウクライナ侵攻に関して次のように語った。

「ヴァチカンではできることは何でもする。特に平和の維持のため、戦争の終結のために働く。戦争当事者の間に同じ距離を持って立つ。我々は死者を生み出す戦争そのものを中止させたい。ローマには太陽が燦々と注ぐ日に、ウクライナでは、血が流され、涙が流れているのだ。」

また法王は、ウクライナからの避難民を受け入れた諸機関に感謝の言葉を述べている。

法王のウクライナ及びロシア訪問の可能性

ウクライナのゼレンスキー大統領は 2 月 26 日、フランチェスコ法王に電話をし、ウクライナの現状を訴えたとともに、法王のウクライナのキーウ訪問を要請した。法王はゼレンスキー大統領はじめウクライナ国民が平和を求め、国を守ろうとしていることはよく分かるとしたが、訪問については明確な返事は避けた。ヴァチカンのパロリン国家秘書は次のように述べている。

「兵器の使用は喜ばしいことではない。しかし、命を守る権利はある。国を守り、生命を守るために武器を取る必要もある。これは正当防衛に当たると思う。法王は武器を使用することは悪魔の行いであり、神の思惑とはかけ離れていると言っているが、戦争を止めるのは、両者の対話しかないのだ。」

ローマ法王のウクライナ訪問にはいろいろな問題があって、

そう簡単にはいかないようだ。法王がウクライナに行くためには、ロシア総主教キリル 1 世、東方典礼カトリック教会首位大司教シェブチュックの同行、同席が必要となる。また法王訪問となると、現在進行中の戦争を一時中断し、平和のうちに三大主教が、戦争の停止を話し合い、平和を求めなければならない。対話に際して最も困難になる要因は、ロシア正教会のキリル 1 世の言動だ。彼はプーチンのウクライナ侵攻は正しいことだと評価している。彼はプーチンを支持しているのだ。その根拠は、西欧が支持する同性愛者の市民権に反対しているところにある。そこから、西欧諸国に反意を翻しているのだ。ともあれ、西欧のホモセクシャル、麻薬の服用、コロナウイルスのワクチン適用にも全て反対なのだ。

さらに政治的に眺めると、ロシアにとっては、1945 年 5 月 9 日はナチス・ドイツに勝利したという大記念日である。ロシア陣営を離れ、EU や NATO に加盟しようというウクライナ政権をネオ・ナチと定義し、それを排除しようという大前提があるのだ。

当初、ウクライナ侵攻は早期に解決するものと思われていた。ロシアは軍事力の差から、ウクライナ侵攻後、数日のうちにウクライナを陥落させることができると思っていたようだ。しかし、ウクライナの女性や子供たちは EU 加盟の国々に避難したが、残った男性達の共同防衛が功を奏し、各地で善戦が続いて、武力的に勝るロシア軍はあちこちで窮地に陥っている。きっとアメリカや EU 諸国の支援が大きく働いているはずであろう。

ローマ法王のウクライナ訪問の可能性はあるのだろうか。法王は現在満 85 歳。体力的にはあちこちへの移動が難しくなりつつある。法王は去る 4 月 2、3 日と地中海の心臓部のマルタ島を訪問。信者には元気な姿を見せていたが、右足の膝に大きな故障を抱えている。昨年入院して治療を受けたが、完治はしなかった。退院後その症状はさらに悪化し、移動のための足の運びにも大きな痛みがあることは第三者の目にもわかる。去る 4 月 27 日の一般謁見の時にも、椅子に座ったまま参列者に話しかけていた。そのため、法王は多くの儀式に参列できなくなっている。医者たちは法王に関節の手術をするように勧めている。

本稿執筆時の 5 月 3 日、新しいニュースが飛び込んできた。法王はモスクワで、プーチンに会う準備ができたというのだ。

「私 (法王) は、ウクライナ大統領ゼレンスキーに電話をして、『プーチンは戦争を今のところやめないうのだが、私はプーチンに会うために、モスクワに行く用意がある。だから今の時点ではキーウには行かない』と述べていた。戦争が始まって 20 日後、私は秘書パロリンに対して『法王はモスクワに行き、プーチンに会う用意がある』とプーチンに伝えるように依頼した。しかし今に至るまで、プーチンからの返事はない。一体何をするのかと聞く者がいるが、私は一神父だ。なにをするかって？ プーチンがドアを開ければ、私は一神父として、することをすべてするのだ。」

法王は 5 月 5 日には膝の手術をするということだった。